

## 鹿児島県内 新型コロナウイルス急増・インフルエンザも 医師「基本的感染対策の徹底を」

1/29 鹿児島ニュースKTS



<https://news.yahoo.co.jp/articles/86e06f695b731441d70813b5bca0297dd43a26aa>

先週、鹿児島県が発表した感染症情報では、県内の定点医療機関での新型コロナウイルスの感染者数が前の週の2倍近くに増えていました。流行警報が継続するインフルエンザの感染者も増加が続く中、医療機関の現状取材しました。

米盛病院救急・総合医療科 梅澤耕学医師

「2023年に比べれば、だんだん増えてきている印象はある。潜在的な感染者はすごく多いのではないかと印象を持っている」

鹿児島市の米盛病院で発熱・救急外来に携わる梅澤耕学医師はこのように話します。

鹿児島県内では2024年に入ってから、新型コロナウイルスの感染者が急増しています。1月15日から21日までの1週間で、県内89の定点医療機関では前の週の2倍近くに当たる、1149人の感染が報告されています。

また、2023年11月から流行発生警報が継続しているインフルエンザも、2週連続で感染者数は増加しています。

米盛病院・梅澤耕学医師

「発熱で救急車を呼んでも、なかなか隔離する病床がないという理由で搬送先が見つからないという現状も、鹿児島ではやや出てきているようなので、実際増えているのは増えていると思う」

感染者の増加は入院患者数の変化にも現れています。1月24日付で新型コロナウイルスの入院患者が505人を超えたため、鹿児島県は県の病床確保計画に基づき、それまで0だった即応病床を、62確保する「フェーズ1」に移行しました。

これは2023年10月に新たな運用計画となってから初めての引き上げです。

米盛病院・梅澤耕学医師

「コロナの即応病床は持っていないが頑張って個室で診ている病院がたくさんあるイメージ」

記者「これ以上また増え続けたら大変になるかもしれない？」

梅澤医師「可能性は秘めていると思う」

この現状を踏まえて今私たちがすべきことは、これまで通りの基本的な感染対策だといいます。

米盛病院・梅澤耕学医師

「今後さらに増やさないということも含めて、マスクをして、手洗いうがいをしてという、基本的な感染管理をやっていた方が自分がうつらないというのもあるし、できるだけ周りにうつさないというのがあるので、状況に応じてやってもらった方がいい」